



【2023年度第2回文化交渉学ワークショップ講演】中山間地域における持続可能なコミュニティの構築に向けた外国人技能実習生の受け入れ：愛媛県の実地協同組合Xのむらづくりを事例

二階堂，裕子

(Citation)

海港都市研究, 19:75-76

(Issue Date)

2024-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100488385>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100488385>



【2023 年度第 2 回文化交渉学ワークショップ講演】

中山間地域における持続可能なコミュニティの構築に向けた
外国人技能実習生の受け入れ

——愛媛県の地域協同組合 X のむらづくりを事例に——

二階堂 裕子
(NIKAIDO, Yuko)

要旨

本報告の目的は、過疎化の勢いが止まらない中山間地域において、外国人技能実習生の受け入れが地域社会の持続可能性を高めうるのか否かについて検討することにある。そのために、愛媛県西予市 Q 町 K 地区を拠点に活動する「地域協同組合 X」（以下、「X」）を事例として取り上げ、X によるむらづくりにおいて、技能実習生が果たす役割を明らかにするとともに、外国人から「選ばれ続ける」ための条件について考察した。

近年、農業者の高齢化と後継者不足がますます深刻化するとともに、農業を基盤とする地域社会の衰退が一段と進んでいる。一方で、グローバル化の進展にともなって、外国人労働者が急増している。とりわけ、大都市圏から遠距離にある東北、中国、四国、九州の各地域では、技能実習生の受け入れが拡大しており、今後も技能実習生への依存が高まると考えられる。農業分野もその例外ではなく、技能実習生の雇用に活路を見出そうとする農業者が徐々に増えつつある。

ただし、技能実習生の受け入れをめぐる、さまざまな課題が指摘されてきた。たとえば、外国人技能実習制度の本来の趣旨である「技能移転」が、実際にはほとんど達成されていないことがあげられる。こうした現状を背景に、政府の有識者会議において本制度の見直しに向けた議論が進行しており、近々新たな制度の案が提示される¹³¹。そして、新制度では、その趣旨から「技能移転」が削除されるとともに、技能実習生の意向による職場の移動が（条件付きながら）認可される見込みである。けれども、技能実習生の転籍によって、今後、過疎地域では、人材確保がますます困難になることが懸念される。

こうした問題意識のもと、本報告では、X が 1970 年代から今日まで精力的に進めてきたむらづくりの取り組みに着目した。X は、農業を営む自分たちにとって価値ある働き方や生き方を体現するため、有機農業を核とする多様な農村コミュニティ・ビジネスを展開してきた。その担い手の確保のため、新規就農希望者を積極的に受け入れてきたものの、急激な高齢化のなかでやがてこの方策も行き詰まることになる。そこで X は、ベトナム人とフィリピン人の技能実習生の呼び入れに舵を切ったのである。ただし、単なる労働力確保の手段として外国人を雇用するのではなく、「ノートピア（＝農のユートピア）」の建設という自分たちの理念にかなった受け入れのあり方とは何かを協議する。その結果、X が行き着いた答えは、ベトナムに有機農業研修センターを設立し、現地で有機農法の普及を試みるとともに、帰国した技能実習生の有機農法実践を

¹³¹ 本報告を行った時点では、新制度案がまだ提示されていなかったが、その後 11 月 24 日に新制度の概要が示された。

支援することであった。こうしたベトナムでの取り組みが、技能移転の実現に結びついているだけでなく、現地のベトナム人からXが技能実習生としての就労先に「選ばれ続けている」ことは、注目に値するだろう。

以上の事例をもとに、中山間地域における持続可能な地域社会の構築に向けて、誰もが生きがいをを持って暮らせる社会のために何が必要かを真摯に追求し、実行すること、その際、「外国人財」の力を借りるのであれば、彼・彼女らと Win-Win の関係を築きつつ、その時その場所での最適解を導き出そうとする姿勢が求められることを指摘して、本報告を終えた。

最後に、こうした報告の機会を与えてくださいました神戸大学大学院人文学研究科の教職員と大学院生のみなさまへ、心から感謝申し上げます。

参考文献

- 二階堂裕子, 2019, 「外国人技能実習制度による国際貢献に向けた課題——ベトナムにおける農業分野の技能移転の可能性」『西日本社会学会年報』17: 47-61, (2023年12月11日最終閲覧, https://doi.org/10.32197/sswj.17.0_47.)
- , 2020, 「外国人技能実習生とともに働くということ——農業の現場を事例に」谷富夫他編『社会再構築の挑戦——地域・多様性・未来』ミネルヴァ書房, pp.264-78.
- , 2021, 「外国人技能実習生を活用した農業経営戦略——技能移転を通じた内発的発展の可能性」『社会学評論』71(4): 559-76, (2023年12月11日最終閲覧, <https://doi.org/10.4057/jsr.71.559.>)
- , 2022, 「外国人とともに創る自立的な農山村コミュニティの可能性——持続可能な人口減少社会をめざして」『農業と経済』88(3): 45-54.

(ノートルダム清心女子大学)